15地区サッカー協会

函館地区 / 空知地区 / 旭川地区 / 釧路地区
(一社)十勝地区 / 室蘭地区 / 苫小牧地区 / 北空知地区
千歳地区 / 道北地区 / オホーツク地区 / 根室地区 / 宗谷地区

【函館地区】

地区の現状と今後の展望・取組

函館地区サッカー協会　理事長　深澤　昌明

２０２４年度には役員改選があり、４月２７日の総会では会長、副会長を再任し、理事長には新しく深澤昌明が就任いたしました。また、各種別委員会や専門委員会でも新しい体制で、２０２４年度がスタートいたしました。世代交代も進めながら、持続的・継続的な地区協会運営を行い、協会に関わる全ての皆さんが気持ちよく、楽しくサッカーに触れられるよう努力してまいります。

さて、新型コロナなど様々な感染症の対策から共存という時代の変化の中で、協会としても、以前に戻るというだけではなく、過去の良き伝統を生かしながら新しい色を付け、サッカーが楽しい、素晴らしいと思われるスポーツにしていく必要があると感じています。そのためには、協会理事だけではなく、協会を支えてくださる選手、審判員、指導者など多くの関係者との協力と、協会を外から支えてくださる方々との関係をよりよいものとしてく必要があると思います。

現在、函館地区サッカー協会は任意団体の協会と一般社団法人の二つの運営を行っています。社団法人は函館市の指定管理業務を主とした収益事業に特化していますが近い将来は任意団体を解散して非営利業務の二本立てによる社団法人の運営を行います。現在、事務所を構えていますが専従員が不在の為、個人ボランティアにより支えられています。近い将来は事務職員の雇用も視野に入れ活動の幅を広げたいと考えております。昨今のサッカーを取り巻く状況から、今までのようにボランティアだけで運営することの限界も感じておりまます。次に大きな事業として「函館フットボールパーク」の受託運営があります。２０２５年度からの新たな５年間の指定管理に向け内容を精査し協会としてサッカーファミリーの拡充・充実を目指し進めているところであります。また、女子及びキッズ世代の普及事業についても委員会を中心に進め、地区としての盛り上がりを計画・実践する段階にあると思います。

現在、地区としての一番の問題は登録チーム及び登録選手数の減少です。この１０年を見ますとチームは１割減、選手については半数近くまで落ち込んでいます。渡島・檜山管内の人口減少も要因の一つですが、サッカーを続けたい、楽しみたいという方々が減ってきていることも原因の一つではないかと思っております。今後は地区協会としてサッカーをより魅力のある市民スポーツにしてくことが課せられているのではないかと考え、近隣他地区協会とも連携を図りながら地区におけるサッカーの魅力を広げること、これを一番の目標として進めて参りたいと思います。

【空知地区】

空知地区の現状について

空知地区サッカー協会　理事長　磯辺　正道

サッカーは世界で最も人気のあるスポーツ競技だと思います。様々な国や地域、年齢や性別を問わず多くの人々がプレイや観戦を楽しんでいます。FIFA ワールドカップをはじめとする大会は世界中で愛されています。サッカー界でも近年は、人口減少に伴い急速な少子化から競技人口の減少（男性はピーク時の約半数以下に減少、女性は約 5 倍に増加とのデータです）特に小学生年代が顕著に減っていることが上げられると思います。

空知地区でも同様に人口減少からの少子化が進んでおり懸案事項として問題視されている現状です。これらを鑑みた取り組みとして、岩見沢 FC（3 種）による部活動の拠点校方式が 2 年目を迎えております。サッカーを競技としてだけでなく楽しむスポーツとして活動するカテゴリーを設立して、トップチーム（道央カブス）、セカンドチーム（地区カブス）、サードチーム（U-13 道カブス 3 部）が各カテゴリー別に大会エントリーし拮抗したゲームができる環境を整えています。

川澄奈穂美さんサッカー教室

なでしこサッカースクール

明るい話題としては、女性の競技人口の増加傾向は空知地区においても同様と考えられます。中学女子サッカーチーム岩見沢 FC ルファヴェニールは 5 年目を迎え地域を代表するチームとして継続的に活躍しています。小学生低学年の女子選手を中心に活動している「なでしこサッカースクール」には、年中～小学生の選手たち近年活発な女子トレセンの選手や中学生といった幅広い選手が参加していることから、連携の強化と普及啓発など地道な取り組みからの賜物と言えます。今年度から日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会の一部運営を夕張・栗山にて開催致します。協会一同、微力ながら準備・研鑽する所存でございますのでご支援くださいますようお願い申し上げます。

最後に審判員委員会では、道内最年少の 22 歳でサッカー1級審判員になった大村美詞さん、北海道サッカー協会審判委員長の藤井陽一さんは、1 級審判員として 15 年に渡りサッカー界の第一線で活躍されて昨年惜しまれながら引退されました。お二人とも空知サッカー協会の誇りであり大きな希望と感じております。

【旭川地区】

旭川地区サッカー協会の現状と課題

旭川地区サッカー協会　理事長　對馬　紀一

2023 年は、日本最高峰の高校年代の大会であるプレミアリーグに旭川実業が参戦と、期待に胸膨らませるスタートとなりました。しかし、7月には、永きにわたり旭川地区サッカー協会を牽引してくださった太田会長・荻原副会長。そして、翌 2 月には、古髙副会長の訃報に接し、悲しみとともに、亡き三氏の残してくださったサッカーに対する想いを引き継いでいかなければならないという強い決意を持つことができました。

中村新体制のもと臨んだ一つ目の事業は、令和 5 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会［男子］（ 7/28～8/4）。北海道第1代表としてこの大会に臨んだ地元旭川実業。北海道勢としては唯一、三回戦に進出するも強豪市立船橋に惜敗し涙をのんだ。その後、多くの熱戦が繰り広げられ、花咲陸上競技場において、明秀日立と桐光学園の迫力ある決勝戦で幕を閉じた。成功裏のうちに終えることができたのも2種(高校)委員会の指導者・選手のみなさんと地元自治体である旭川市の力が大きかったものと考えます。これほど大きな大会は、2015 年の全国自治体職員サッカー選手権大会以来であり、旭川地区サッカー協会の底力を見たと言えるでしょう。また、花咲陸上競技場での大会開催は、今年の高校総体のために行われたプレミア等の試合を除けば、1996/6/2、コンサドーレ札幌が JFL において、ヴィッセル神戸と対戦し、アルシンドとペレイラが得点し勝利した試合以来となります。今後、旭川地区においても大きな大会が開催できる会場の確保を目指し、力を尽くさなければならない状況にあることを再確認させられました。これは旭川地区サッカー協会が抱える大きな課題となります。

8/26～27、旭川市と姉妹都市である韓国水原市との相互交流「日韓親善少年サッカー交流事業」が 4 年ぶりに東光スポーツ公園にて行われました。これは、コロナ禍の終息を意味し、前向きの気持ちを育む出来事でした。これを契機として、冬のクリスマスパーティー(12/11)を 4 年ぶりに開催し、268 名もの参加者を得て、盛況のうちに終えることができました。皆さんの温かさに触れ、より一層力を尽くしていこうと決意を新たにしました。

11 月 9 日～11 月 18 日、ブラジルで『ろう者フットサル世界選手権大会（デフフットサルワールドカップ 2023）』において旭川出身の野寺風吹氏の得点で勝利し、銅メダルを獲得したことは、大変嬉しいニュースであり、多くの選手に夢と希望を与えてくれました。先日の道協会における表彰では、代理出席された北海道ろうサッカー協会の皆さんの笑顔を見て、このような交流はとても素晴らしいものだと感じました。

10 月には、天然会場の整備ボランティアに、766 名の参加を得て行うことができました。それでもまだ、「花咲球技場の改修」「東光スポーツ公園におけるアリーナの建設」、「花咲陸上競技場の改修」や「旭川市総合体育館の建て替え」などまだまだ解決しなければならないものが多く存在します。これからも、サッカーを楽しくプレーするための環境整備のためにできることを一つ一つ取り組んでいきたいと思います。

【釧路地区】

2023 年度の釧路地区サッカー協会

釧路地区サッカー協会　理事長　八城　雅彦

2023 年 5 月に新型コロナウイルスが2類から5類に移行され、ようやく通常の生活が戻ると同時に、サッカー大会も以前の運営ができるようになりました。

一種は、社会人サッカー連盟が市内リーグ、各種大会を積極的に運営しています。近年は不況等の影響もありチーム数がやや減少傾向にあり、ピーク時には 50 チーム程度であったことを鑑みると、30～40 代のシニア世代の発掘が肝要かと思われます。

二種高校世代は、従来の春季フェスティバルを高体連のシード大会へと改め、平成 20 年度から開始した U-18 のリーグ戦もスタッフの努力により試合数が増え、選手諸君の励みとなっています。

三種中学年代は、平成２０年度から開始した前期、後期の長期リーグ戦を導入し、実力が拮抗した試合が展開されています。中体連のトーナメント戦、フットサル大会（U-15・U-14・U-13）などの大会と合わせ、軌道に乗っています。

四種少年世代は、短いサッカーシーズンに多くの大会が開催されていますが、運営に関わる総務部、審判部、技術部の各委員会を設け、スムーズな大会運営、各指導者の協力体制作り、審判技術の向上、指導技術の向上が図られています。また、現在進行中の少子化対策として、キッズ年代の講習会等が本格的にスタートしています。

女子は底辺拡大のため小学女子トレセンの活動を行い、小学生から大人までサッカーを楽しめる環境となっており、JFL のチームで活躍している選手も排出しております。

技術関係も管内から J リーガーを排出することを目標に熱心なトレセン活動を展開しています。

2016 年度に作成した釧路地区サッカー協会マスタープラン 2025 の目標は、1.釧路にサッカー専用芝グラウンドをつくる。2.サッカーファミリーを 1 万人にする。3.釧路からプロ選手を育てる。となっています。地区協会の法人化や専用事務所の開設、指導者の育成・拡充など課題山積でありますが、一度初心に戻って検討を加える所存でおります。

【十勝地区】

70年を目指して

一般社団法人十勝地区サッカー協会　専務理事　大橋　穣

平素より本協会の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

おかげさまで、昨年度十勝地区協会は、設立60周年を迎えることができました。これもひとえに、北海道サッカー協会や各地区の皆様方のご協力のおかげと感謝しております。

60周年であった昨年は、十勝として初となる国際試合である、フットサル日本代表戦を引き受けさせていただき、関係各位のご尽力もあり、無事に実施することができたことは、今後の財産となると思います。

他にも、高体連全国大会（女子）、全国クラブチームサッカー選手権大会（1種）を実施したほか、2011年から13年間（2020年はコロナのため開催中止）十勝で開催してきた日本クラブユースサッカー選手権大会（U-15）が、2023年でひとまず最後の開催となりました。

本年においても、年明けの2025年2月に2年振りの開催となる全日本女子フットサル選手権大会をはじめ、各種の全道大会を開催する予定となっております。レベルの高い試合を、地元のサッカーファミリーに提供することで、競技力の向上やサッカー人口の増加等に繋げていくことができればと思います。

また今年度から、協会内にファミリー拡大委員会が新たに設置され、キッズ世代の競技人口拡大に向けて、様々な取り組みを行う予定です。

中体連の全国大会開催種目縮小など、スポーツ界を取り巻く環境が厳しくなってきておりますが、サッカー関係者におかれましては、逆境に負けずに、引き続きサッカーの発展にご尽力いただけるようにお願い申し上げます。

フットサル国際親善試合日本代表戦の様子

©JFA

©JFA

【室蘭地区】

室蘭地区の現状と展望

室蘭地区サッカー協会　理事長　橋本　誠司

令和5度の室蘭地区のサッカーとフットサルの登録数は、1月末現在で68チーム（-1）、選手1，724人（＋23）でした。ここ5年間では西胆振全体の人口減や少子化の影響で登録20%(－400人)の減少が見られます。特に社会人（サッカー、フットサル）が4割近く減少し、危惧されるところです。一方、女子やシニアは登録者数を伸ばし、4種では低学年・幼児世代への普及により減少を抑えています。特に、グラスルーツ委員会では、幼稚園・保育園の巡回教室を27回開催し普及活動を推進しています。

3種では部活動地域移行に合わせて、チームの再編成やサッカー部がない学校の生徒の取り込みなどに動き始めています。「競技としてのサッカーを目指す選手」と「汗を流してサッカーを楽しむ選手」と、双方の活動の場を創出し、サッカーファミリーの拡充を進めていきたいと考えています。

このような中、全道大会優勝（6大会）・準優勝（3大会）・第3位（1大会）の活躍があり、4チームが全国大会へ駒を進めました。各チームや選手の健闘を称えると共に、指導者のご尽力に敬意を表しています。また各種委員会によるより良いゲーム環境の構築、技術委員会によるトレセン活動の充実、ユース特別委員会による「GK道場」開催や「C級スタンダード」の取組等、選手育成・強化の活動が繋がっているものと考えています。

その中で、「WO特別委員会」を設け、MWO配置の推進とCWO養成講習会開催等を行いました。サッカー界における差別や暴力の予防活動を推進し、安心・安全にサッカー活動に取り組める環境作りをめざしています。

環境面では、昨春、「リーフラスフットボールパーク」がオープンし、数多くの大会や練習場所として利用されました。一方で、入江がなくなり、グラウンドが1面になったことで、遠方での大会運営営も必要になり、選手や役員・審判に負担がかかったことも事実です。今後も施設整備・拡充に向けた取組をねばり強く進める必要性を感じています。

今夏は、当地区で全国インターハイ女子サッカー競技が開催されます。高体連の準備委員会に地区協会も運営協力の努力をしていきます。今後も、サッカーファミリーの支援を基盤に、新しい「むろらんフットボールカルチャー」が根付く取組をめざしていきます。

【苫小牧地区】

苫小牧地区協会の展望

苫小牧地区サッカー協会理事長　野田　篤志

登録チーム数・選手数の拡大というよりは、いかにして現状を維持できるか？全ての地区共通の課題であり困難な課題でもあります。

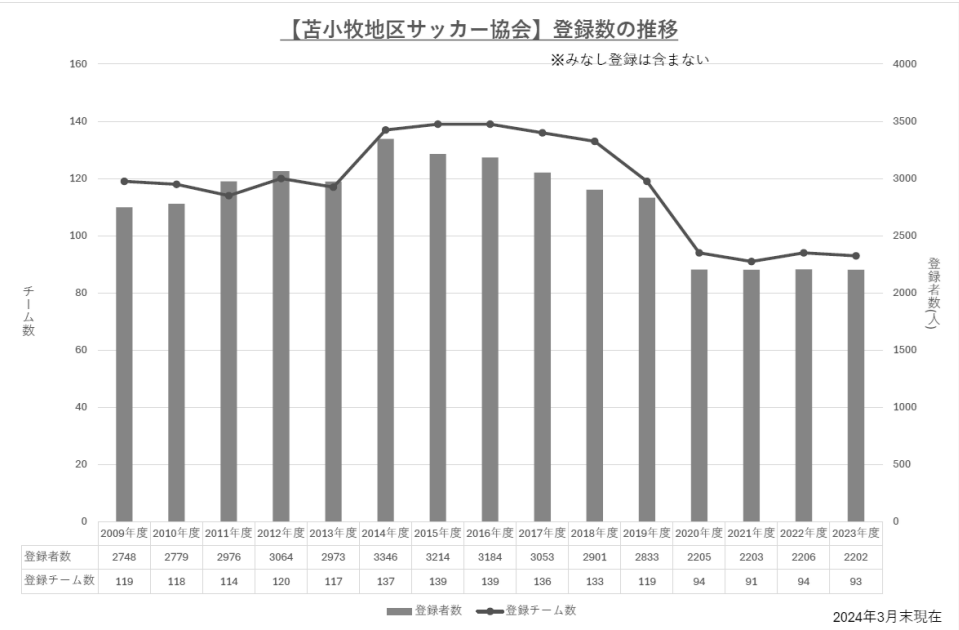
当地区もコロナ期で落ち込んだ登録数のまま 4 年経過し、ほぼ横ばいの状況から抜け出せずにいます。キッズフェスやフットボールデー等のイベントも毎年行われていますが課題の抜本的な解決策には至っていないのが現状と思われます。普及育成事業の拡充、そして生涯スポーツとしてのサッカーファミリー拡充のためにも、それを支える土台となるのは私たち地区協会であり、その土台の発展なくして将来は無く基本に立ち戻り次世代につなげる協会つくりに重点を置くスタートの年とすべく今年度の活動をスタートしたところであります。具体的には

①組織の流れを見直し明確な体系作りに着手

②30名程の常任理事の約半数に30歳台前後を抜擢し組織の若返りを図り新しい感覚で課題解決に向かう

③副会長を筆頭に女性理事を5名選出、今後さらにその数を増やす方向性を抱いており、その役割に重要性を持たし多角的な視点を保持。

多様化する社会の中でまずもって協会そのものの体質の強化を図ることで次世代を担う人材作りこそがサッカーファミリーの拡大につながることと信じ2024年度がきっかけの年となるよう邁進してまいります。



	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
登録者数	2748	2779	2976	3064	2973	3346	3214	3184	3053	2901	2833	2205	2203	2206	2202
登録チーム数	119	118	114	120	117	137	139	139	136	133	119	94	91	94	93

【北空知地区】

活動の成果と今後の課題について

北空知地区サッカー協会　理事長　鈴木　敏之

２023年度の活動と、今後の課題を紹介いたします。

１種のサッカーにおきましては、道北ブロックリーグに参加が1チーム、地区リーグに参加が5チームとなっており、なかなか登録チームが増えない現状であります。また、フットサルにおきましては、10チームの参加があり、サッカーに比べるとフットサル登録の方が多く、フットサルの方が比較的参加しやすいのかと思われます。

全道大会の主管についてですが、前年度に引き続き全道シニアフットサルオープン大会を開催しました。
各世代合計32チームの参加をいただき、また女子チームの参加もあり、盛会裏に終了することができました。

２種についてですが、登録が2チームと寂しい状況です。そんな中、８月には昨年に引き続き北空知サッカーフェスティバルを開催し、３日間で延べ48チームの参加をいただいております。

３種についてですが、こちらも厳しい状況となっておりますが、少ない登録チームの中でも、多くの選手が試合に出場できる機会を設けながら、大会運営を行っております。

４種についてですが、登録が8チームで、大会開催数は１番多くなっておりますが、少子化と新型コロナウイルスによる活動自粛の影響が大きく、低学年の登録選手数が減少となっており、キッズ活動の拡充が喫緊の課題となっております。また、各チームの選手数のバラツキが大きく、なかなか拮抗した試合にならない現状となっております。
２024年度の大会主管は、１２月に全道フットサル選手権大会 Ｕ－１２女子の部、３月に全道シニアフットサルオープン大会を予定しておりますので、多くのチームの参加をお待ちしております。

規模は小さな協会ではありますが、色々な工夫をし、皆がサッカーを楽しめる環境作りを引き続き進めてまいります。

【千歳地区】

地区の現状と今後の展望

千歳地区サッカー協会　理事長　北国　浩

当地区は、千歳市・恵庭市・北広島市の3市各サッカー協会で構成されております。令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が感染法上、第5類に移行となったこともあり、各種別の事業も計画どおりに進めることが出来ました。2023年度のチーム数は45チーム、選手登録数は1371名、3種・4種チームはそれぞれ1チーム減、大学女子チームが1チーム増となりました。前年度と比較しますと、選手登録数は7名、チーム数は1チームの増加となっています。3種においては、合同チームでの登録が多く見受けられます。昨年8月に恵庭市で開催された全道中体連大会では、恵庭市が全5校合同チーム、千歳市では合同で1チームと単独校1チームが出場しました。中体連の合同チームの中には、選手人数が多いチームもあることから、地区カブスリーグでは、シーズン毎に組合せが変わることを避けるため、同じ組合せで運営をする工夫をしています。また、4種においては、毎年、選手数、チーム数が減少傾向にありますが、キッズ年代が増加していることから、巡回指導やフットサルも含めたスクール開催の他にも、登録に向けた新たな取り組みが課題であります。2023年度は、全道中体連、全道高校女子選手権、道女子リーグを同地区で主管し、マッチコミッショナーやマッチウェルフェアオフィサーを地区内の役員で配置開催出来たことを踏まえ、2024年度は同地区内の全登録チームに1名のクラブウェルフェアオフィサーを配置出来るよう、ウェルフェアオフィサー委員会を設置、ウェルフェアオフィサージェネラルにより研修会を開催し、取得者の養成を行ってまいります。誰もがサッカーの楽しさに触れられる環境づくりの構築に向けて、各自治体や関係機関との連携による施設整備を進めるとともに、危機感を持って、地区協会と各種年代指導者の力を結集し、サッカーファミリー拡大を目指します。

【道北地区】

道北地区の現状と課題

道北地区サッカー協会　理事長　谷口　直寿

道北地区において、中心自治体としている名寄市、士別市の人口が様々な要因のなか、人口減少率がさらに拍車をかけている現状にあるいま、必然的にサッカーを取り巻く環境にも影響が出ている。各カテゴリーで、単独では維持できない状況となっており、自治体同士での合同チーム編成で何とかチーム維持しながら進めてはいるものの、将来的な解決策とはいえません。とりわけ子供たちの減少により、2 種の高校部活存続問題や 3 及び 4 種のチーム数の減少など、厳しい状況に直面していることから対策が急務である。

今後も、将来に向けて底辺拡大のためキッズ年代の教室やフェスなど普及活動を促進し、遊びを通じてサッカーの楽しさを保護者も一緒に感じて貰えるよう、様々なアイデアを取り入れながら、継続的な活動につながるよう取り組んでいきます。

また、各地域の取り組みとして「サフォークランド士別サッカー大会」や「ミヤザキ杯」など、4 種各カテゴリーにおいて地区の独自大会を行いながら子供たちのモチベーションを保てるように努め、子供たちが継続して続けられる環境を維持していきます。さらに、女子サッカーの普及活動に努め、サッカーファミリー拡大につなげていきます。

中学校や高校の部活動の地域移行に伴う課題もありますが、教育委員会や学校、各自治体など関係機関と協力しながら、サッカーを安心して継続できる環境の整備を図っていきたいと思います。

今後もサッカーの楽しさをあらゆる世代と共有すると共に、関わる皆さんが心身ともに充実していくことを目指し、課題解決に向けて進めていくためには、協会理事会や事務局、各委員会などの活性化や効率化など組織の見直しを図ることも取り組んで参りたいと思います。

【オホーツク地区】

オホーツク地区サッカー協会の現状と課題

オホーツク地区サッカー協会　理事長　中田　孝一

オホーツク地区では、2016年4月に、『16→25プラン』と次の10年に向かって進むために独自のプランを掲げました。「リーグ文化の醸成」、「女子選手数の倍増」、「施設の充実」、「みんなつながっている」を重点課題とし、役員一丸となって取り組んでおります。

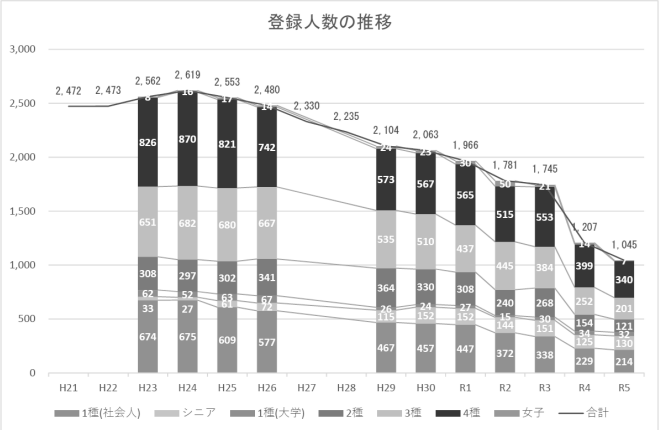
重点課題の1つである女子選手数の倍増については、難しい状況ではありますが、ガールズサッカースクールを開催するなど、女子委員長や指導者スタッフの尽力により昨年度は選手数の減少が留められております。また、3種年代の女子選手が高校進学時に旭川や札幌圏などの強豪校へ進学し競技を継続されていることについて、オホーツク管内には2種の女子チームが無いことから、選手の皆さまには各所属チームでの活躍を期待しております。

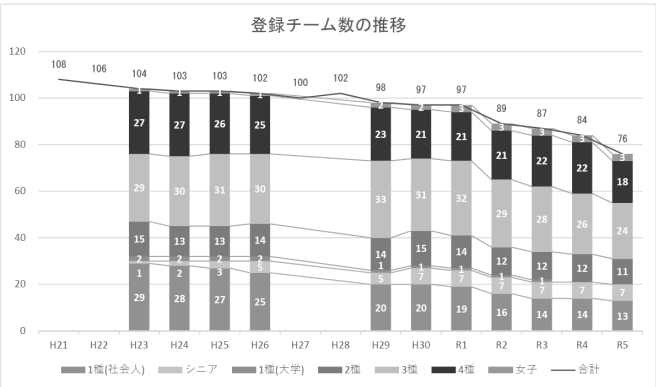
オホーツク女子選手

当地区の課題としましては、サッカーに限らずどの競技にも共通します少子化による競技人口の減少が深刻化しており、当協会のサッカー人口も減少しています。平成24年度のピーク時の登録人数の約4割となっております。今後も継続してキッズ年代にサッカーの楽しさを伝えたく幼稚園等への巡回指導やキッズ教室を開催しファミリー拡大などの目標達成に向け進めていきたいと考えております。

今年度は、8月に全道社会人サッカー選手権大会（1種）と9月に全道 0－50サッカー大会（シニア）が本地区協会主催で開催いたします。

大会に参加される選手、役員の皆さまに対しまして、精一杯大会運営に尽力いたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。





【根室地区】

根室地区協会の現状と今後の展望

根室地区サッカー協会　理事長　高橋　勇樹

根室地区サッカー協会の現状としては、チーム数及び選手数の減少が著しく、登録チーム数が年々減少傾向にあります。これは、どの競技に関しても言えることですが、そのような中でもファミリー拡大を図るべく、各種別で積極的な取り組みを進めています。まず、キッズの取り組みとして、積極的な巡回及び集合型のサッカー教室を開催し、4 種年代へのつなぎとなること。4 種は、試合数を確保し、いずれのカテゴリーも多く試合に参加し、サッカーの楽しさを伝えること。女子に関しては、単に男子選手とともに試合を行うことにとどまらず、地区間で連携を取り、女子の試合を多くすることなど、コロナ禍以降、積極的に各種別関係者が工夫をし取り組みを継続しているところです。2024年度については、例年の取り組みから大きく変更することなく、キッズ年代への積極的なアプローチを継続していき、年に一度開催されるキッズ大会で燃え尽きてしまうことがないよう、通年で取り組みができる環境を作り出すこと。4種年代は引き続き、サッカーの楽しさを全カテゴリーで感じていただくとともに、トレセン活動を活用したポジション別の強化を図り、楽しさに強さがプラスされるよう活動にアクセントをつけ深化推進する必要があります。また、3種年代は、部活動の地域移行問題があり、部活動としてもチーム数が減少傾向にある中、地域移行により減少に拍車がかからぬよう各市町と協力し、積極的に地区サッカー協会として関わりを持つ必要があると感じています。そこからつながる2種年代も決してチーム数、登録選手数が多いわけではありませんので、各種別が積極的な取り組みを継続し、自身の市町や管内にとどまることができるよう、魅力ある活動を推進していくことを少しずつではありますが、進めていきたいと考えるところです。地域は広いものの人口は他の地区に比べ少ない地区ではありますが、各カテゴリーが目的意識を持ち、地区協会として連携を強化することにより、魅力のあるサッカー活動を推進していくことは可能であると思いますので、更なる深化推進に向け活動を進めていきます。終わりとなりますが、当地区は北海道の最東端にある地域であり、なかなか全道大会を開催するにも、来ていただくチームへの負担等を考えると積極的な手上げ等は難しいところですが、主要となる種別の全道大会を開催したいという現会長の思いもありますので、今後機会がありましたら、ぜひ根室地区で全道大会を開催していきたいところです。

【宗谷地区】

これからの宗谷地区

宗谷地区サッカー協会　理事長　本山　哲司

昨年5月より、日本のてっぺん宗谷地区でも本来のサッカー活動が再開されました。特に幼稚園巡回が宗谷管内の離島を含めた遠方でも開催することが出来、多くの幼児がサッカーに携わることとなり、大変よろしく思います。また、本年は高体連の全道大会も宗谷地区で開催され、多くの市民がサッカーを身近に感じられる機会を頂きました。しかし、当地区の人口減少は他地区よりも早く進み、選手の減少により単独チームを組めない状況が顕著に表れています。指導者や審判員不足だけでなく、協会役員の担い手不足も慢性化している状況です。発足以来掲げている「日本のてっぺんを熱くする」を合言葉に、サッカーファミリーを一人でも増やし、サッカー活動が出来ない環境を作らないことを掲げ、当地区のサッカー熱を全道・全国へ発信していく1年となるよう、一丸となり盛り上げていきたいと思います。